

事業名：命の大切さを考える防災教育公開事業（学校安全総合支援事業）

モデル地域：県立飯高特別支援学校周辺地区

拠点校：千葉県立飯高特別支援学校

所轄教育委員会：千葉県教育委員会

1 モデル地域の現状

（１）モデル地域

○モデル地域名：

県立飯高特別支援学校周辺地区

○学校数：小学校 1 校

中学校 1 校

高等学校 1 校

特別支援学校 1 校

（２）モデル地域の安全上の課題

拠点校がある飯高地区は、里山の自然が多く残され、緑が美しい地域であるが、一方で、人口減と高齢化が進んでいる。また、地盤の安定した高台に位置しており、過去の地震や台風で大きな被害を受けた経験がない。そのため、危機意識が高いとは言えず、防災への取組も十分ではない。

近隣の小・中学校区は、崖や急傾斜が多く見られ、この数年でも、実際に土砂災害の被害が発生しているところがある。防災への備えは喫緊の課題である。

このようなモデル地域において、学校が中心となって地域の防災への意識を喚起すること、また学校の、避難所としての機能をさらに充実させて、今後起きうる災害へ備えていくことが必要である。

2 モデル地域の事業目標

①モデル地域内の災害安全の取組を推進する。

- ・災害安全に関する地域と学校の連携体制を構築し、継続的に取組が進められるようにする。

- ・災害の多発化・深刻化、新型コロナウイルス感染拡大防止、地域の高齢化を踏まえ、モデル地域内で情報と対応の共有化を図り、必要に応じた連携・協力体制を構築する。

②拠点校における防災教育の充実を図る。

- ・起こりうる可能性のある災害状況をできるだけ多く想定して、防災・減災にかかわる活動の充実を図り、自助意識の醸成と具体的な行動実践を目指す。

3 取組の概要

(1) 実施概要

実施時期	計 画 事 項	参加者
4 月	○第 1 回学校運営協議会（活動方針・年間計画）	学校運営協議会
5 月	○危機管理マニュアル修正 ○第 1 回防災避難訓練（地震）	
6 月	○第 1 回シェイクアウト訓練 ○第 2 回学校運営協議会（避難所開設訓練に向けて）	学校運営協議会、大学教授
7 月	○高等部備蓄品試食体験 ○引き渡し訓練 ○職員心肺蘇生方研修会 ○車いす降下訓練	保護者 消防署署員
8 月	○1000 か所ミニ集会・第 3 回学校運営協議会（防災教育の取組紹介、防	保護者、学校運営協議会、大学教授

	災ゲームクロスロード、講演会)	
9 月	○防災教育強化期間（～12 月） ○第 2 回シェイクアウト訓練 ○小学部備蓄品試食体験 ○高等部「高校生等防災教育基礎講座」受講・起震車体験 ○小学部備蓄品試食体験 ○第 3 回防災避難訓練（地震・火災）	講義講師
10 月	○高等部心肺蘇生法研修会 ○中学部生活単元 ・ 1 年「飯高スペシャル防災リュックを作ろう」 ・ 2 年「学校の周りの防災施設を見つけよう」 ・ 3 年「自宅の周りのハザードマップを作ろう」 ・重複「災害から身を守ろう」 ○小学部生活単元学習 ・低学年「避難生活について知ろう」 ・高学年「地震のとき、どうする？火事のとき、どうする？」	
11 月	○匝瑳市立吉田小学校との交流学习（本校にてボッチャ体験・防災学習の発表） ○匝瑳市立八日市場第二中学校出前授業（飯高の防災への取り組み紹介、防災ゲームクロスロード、障害につい	匝瑳市立吉田小学校 3・4 年生 匝瑳市立八日市場第二中学校 第 1 学年

	て)	
12 月	○避難所設置訓練（学校公開） ・シェイクアウト訓練 ・避難所生活体験 ・煙ハウス体験 ・水消火器体験 ○中学部備蓄品試食体験 ○発電機点検・操作研修・医ケア機器接続確認	飯高地区自主防災会、学校運営協議会、保護者、県教育委員会、匝瑳市総務課
1 月	○第 3 回シェイクアウト訓練	
2 月	○第 3 回学校運営協議会（成果と課題） ○第 3 回防災避難訓練（火災）	学校運営協議会

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

①学校運営協議会におけるモデル地域の実態やニーズの把握

4 月、5 月、8 月に学校運営協議会を開催し、「地域と連携した防災活動と、自分の命を自分で守る力を育成する防災教育の推進」をテーマに意見交換を行った。その中で、モデル地域の防災・安全に関する実態や地域住民の願い・ニーズ等について共有を図った。

参加者・人数：市教育委員会教育課課長 1 名、近隣小・中・高等学校校長 3 名、元特別支援学校校長 1 名、福祉施設代表者 3 名、就労支援センター代表者 1 名、飯高地区区長会長 1 名、飯高地区社会福祉協議会会長 1 名、飯高檀林を守る会会長 1 名、拠点校保護者 1 名、拠点校教職員 14 名、大学教授（合計 28 名）



「第1回学校運営協議会」

② 1000 か所ミニ集会の開催

拠点校の開校からの防災教育の取組を映像で紹介した。防災ゲームクロスロードは、モデル地域に即した状況を設問に取り入れることで、参加者が自分の問題として捉えられやすいようにした。講演会は、大学教授を講師とし、「後悔しない防災」をテーマとして行った。

日時：令和4年8月5日

テーマ：「いいだかの防災・安全をみんなで考えよう」

内容：拠点校の防災教育の取組紹介、防災ゲームクロスロード、講演会
参加者・参加人数：県教育委員会1名、
匝瑳市総務課1名、拠点校学校運営協議会9名、飯高地区自主防災会4名、地域住民1名、拠点校保護者3名、拠点校教職員、大学教授
感染予防対策：運営担当以外の拠点校教職員は、校舎にて学部ごとにリモート会議システムでの参加とし、会場に入る人数を極力減らした。



防災ゲーム「クロスロード」

③防災教育強化期間（9～12月）

拠点校の各学部で、児童・生徒の実

態に応じた防災・安全に関する学習に取り組んだ。

・小学部低学年「避難生活について知ろう」

段ボールベッドやペットボトルランタンを体験し、なぜ災害の際に必要なものか考えた。また、非常持ち出し袋には何が入っているのか確認した。



「段ボールベッドに寝てみる」



「床に直接寝たときと比べてみる」

・小学部高学年「地震のとき、どうする？火事のとき、どうする？」

地震や火災が起きたときに、どのように安全を確保したら良いか、校内の様々な場所での避難の仕方を確かめ、体験した。また、防災ビンゴで避難の仕方の振り返りをした。



「廊下で地震が起きたとき」



「防災ビンゴで振り返り」

・ 中学部 1 年「飯高スペシャル防災リュックを作ろう」

災害に備えて、防災リュックに何を入れたら良いか考えた。なぜ必要なのか、どんなときに使うのか、実物を手にとって確かめながら話し合った。



「実物を手にとって防災用品を選ぶ」



「リュックに入れて重さを確かめる」

・ 中学部 2 年「学校の周りの防災施設を見つけよう」

校庭の防災倉庫には何が入っているのか中に入って調べた。また、地域の防災施設にはどんなものがあるのか、実際に学校の周りを歩いて調べた。



「防災倉庫の中には何が入っているか」



「学校の周りの防災施設調べ」

・ 中学部 3 年「自宅の周りのハザードマップを作ろう」

自宅の周りの地形を調べ、立体地図を作成した。市のハザードマップと照らし合わせて、どんなところで、どんな災害が起きやすいのか考えた。



「立体地図づくり」



「地形と災害の起きやすさの関係を考える」

・ 中学部重複学級「災害から身を守ろう」

地震の際に自分の体を支えることができるように、ゆれを感じたら体に力を入れる学習に取り組んだ。



「倒れないように体に力を入れる」

・ 高等部 高校生等防災教育基礎講座

高等部全生徒が県主催の講座を受講し、起震車の体験をした。



講義「あなたにできること」

・高等部 心肺蘇生法研修会

本校職員が指導者となり、高等部全生徒を対象に心肺蘇生法の実技研修を行った。



「訓練人形を使った実技研修」

④避難所開設訓練（学校公開）の開催

拠点校を会場に、避難所開設訓練を行った。飯高地区自主防災会が避難所の開設、学校運営協議会・拠点校保護者が避難者として参加した。その後、拠点校児童・生徒と共に避難所生活体験、防災体験（煙ハウス、水消火器）を実施した。また、拠点校で防災教育強化期間に取り組んだ学習成果や、モデル地域内の小・中・高等学校の防災教育の取組を展示した。

日時：令和4年12月6日

内容：シェイクアウト訓練、避難所開設訓練、避難所生活体験、防災体験

参加者・人数：飯高地区自主防災会 14名、拠点校学校運営協議会 9名、拠点校保護者 3名、県教育委員会 1名、匝瑳市総務課 1名、拠点校児童・生徒、拠点校教職員、大学教授、学校関係（他校参観者）10名



「避難者の受け付け訓練」



「防災体験：煙ハウス」

⑤モデル地域の中学校への出前授業

拠点校の教員3名が、モデル地域の中学校の1年生を対象に、拠点校の防災の取組の紹介、防災ゲーム「クロスロード」、障害についての講義の出前授業を行った。防災ゲームでは、選択肢を選んだ理由を積極的に発表し合うことで、答えは1つではないことに気付くとともに、災害発生時の心の葛藤を疑似体験することができた。障害についての講義では、障害とはどういうことなのか、自分にできることは何なのかを考える機会となった。



「防災ゲーム：カードで意思表示」

⑤防災専門家の活用

千葉科学大学 危機管理学部

教授 藤本一雄 先生

派遣校数 1校

派遣回数 4回

イ 安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

- ① 拠点校の取組については、8月の1000か所ミニ集会と12月の避難所開設訓練に参加した全ての教職員と保護者、地域の方に質問紙による評価を依頼した。質問紙は回収後に集

計を行い、特に問題点を抽出して検討し、解決策を次年度への課題としてまとめ、校内で共通理解を図った。また、千葉科学大学危機管理学部藤本一雄教授に、各実践を視察していただき、さらなる向上を目指すためのポイントについて助言をいただいた。

- ② 各学校の取組については、拠点校から質問紙による評価を依頼した。

ア 防災教育を年間指導計画に位置付け、授業を実践している学校の割合は、昨年度 50% (2/4 校) から今年度 75% (3/4 校) に増加した。

イ 障害のある人への対応を防災マニュアル等に具体的に明記して具体的な対応を実践している学校の割合は、昨年度 25% (1/4 校) から変化がなかったが、今年度の取組からその重要性を再認識し、今後明記する方向である。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に 関する取組

校内は防災・安全担当と地域連携担当が連携して窓口となり、学校運営協議会を通じて地域・モデル地域の各学校・関係機関との協力を図った。学校運営協議会には、飯高地区区長会長、飯高地区自主防災会、モデル地域の各学校校長、保護者代表等が参加しており、「学校運営部会」「学校支援部会」「地域連携部会」の3つの部会に分かれ、それぞれの観点で学校・地域が連携した安心・安全について議論を重ね、安全管理の充実に繋がった。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中

核教員の資質能力の向上に係る取組について

モデル地域の各学校において、防災・安全担当を校務分掌に位置づけ、中核となって、学校安全や防災教育の推進に取り組んできた。

また、拠点校においては、防災教育強化期間の防災学習において、学習指導案を中核教員が中心となって作成するなど、指導力の向上に取り組んできた。

5 取組の成果と課題

【成果】

- ・拠点校においては、防災教育強化期間を年間計画に位置付け、児童・生徒の実態に応じた学習活動によって、防災の実践力を高めることができた。
- ・モデル地域の各学校と拠点校で、防災教育の取組の情報交換をすることで、地域の実態に合った指導や、児童・生徒の発達の段階に応じた指導の知見を蓄積することができた。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、学校間の交流や、地域との連携、地域の教育力の活用については、残念ながら、限られた範囲の実践となった。今後も感染拡大予防を図りつつ、さらなる連携の強化を図りたい。
- ・学校公開の参観者についても少人数にとどめた。より広く共有化を図るために、学校公開の取組を動画にまとめ、関係者に限定して公開を行った。引き続き、今年度の成果を整理し、情報発信を続けることで、さらなる共有化を図りたい。また、持続可能な社会づくりの観点を取り入れ、今後も継続して防災教育に取り組んでいきたい。